

安曇野のりんご

りんごジュースを注ぎました

川も カササギを見ていたが ぎぎと

ぶくと やさいこれ一本のジュースをたの

んでいた

カササギにはアヒル種もいほどのジュースも

のうてい)

その中で安曇野のジュースは <sup>りんご</sup> したのけ

安曇野へ行くとおもしろ

何となくおもしろいのか

仕事かえり 案内されて行くのが

安曇野の「かおる」の町と地味に「しん」

ていていふ所だ

大=次大 戦後 戦争強盛が多かつた

両親をなくした子 結婚の信い <sup>9</sup> 年がたつた

4どりの町の赤い屋根 せんがり 端子の

時計台 カネおろりす 千こころカ

行くおろ カネは父世の 兄弟でいよとの

言う声よ 皆 <sup>おろ</sup> おいらも 元氣

この歌はよく 写されたといふ

安曇野というところの峠の子供のことと思

歩 現在八十代だと思

物を通り元氣どおしてい、だろ

峠がすまるとわすれられ

かわりな、回、でぶぶした、現在の人

元氣なろろか 安曇野のりんご手元

たろろか

過去として遠くへ行つてし

安曇野のりんごをい

速達を新

幸

2627  
8/3